

「水土を守る人々」では、農業や農業用水の役割とこれらが持つ多面的機能等が十全に発揮されていくために、農業水利施設等の維持管理を支える人々の日常にスポットを当てて、その取り組みを紹介することで、農業農村整備や多面的機能の発揮が「人」の支えの上に成り立っていることを伝えていきます。
※不定期で掲載いたします。

佐賀土地改良区における用水の管理について

～ 佐賀土地改良区 総務課企画・賦課徴収係 大坪 稔典 氏 ～ 佐賀県佐賀市

1. 佐賀平野農業のために

佐賀平野は、佐賀県佐賀市を中心に、県南部から東部にかけて広大に広がる平野で、有明海に注ぐ嘉瀬川の利水によって、約400年前から続く農業地帯です。

今回「水土を守る人々」で紹介するのは、佐賀平野の内、約9,370haの農地を対象に農業用水の確保等を目的として、国営及び県営嘉瀬川農業水利事業（国営S24～S48, 県営S49～S60）で造成された北山ダム、川上頭首工、幹線水路約91kmの施設等の維持管理を行っている佐賀土地改良区総務課の大坪稔典さんです。

大坪さんの実家は農家で、米をはじめとし、麦・大豆や施設園芸でミニトマトを栽培しており、また、大坪さん本人も地元の農業大学に進学し、施設園芸課を専攻されたそうです。しかし、農家になるのは、常に忙しい両親の姿を見ていたため敬遠しましたが、農業に関わる仕事に就きたいと考えていたため、佐賀土地改良区に入られたそうです。でも最近では、実家の農業を手伝うようになり、農家も悪くないと今更ながら思うこともあるそうです。（土地改良区はやめませんが。）



大坪稔典さん

2. 業務の内容

大坪さんは、佐賀土地改良区に勤務して14年目で、最初の6年間は川上頭首工管理事務所に、次の6年間は北山ダム管理事務所に勤務され、現在は総務課企画・賦課徴収係に勤務して2年目になるそうです。



多種多様な経験をされていますが、最初の勤務地の川上頭首工では恥ずかしい話、まず「分土工てなんですか？」から始まったそうです。そんな大坪さんを指導してくれた担当の先輩は水系にとっても詳しい人で、早く自分もこうなりたいと思い、1人で施設巡視を行う時は、水の流れを追って行き、車で行

川上頭首工(下流から上流を望む) けない所は半長靴を履いて土水路の中を歩いて勉強されたそうです。当時の水路は改修途中で、老朽化や地盤沈下などの要因により、通水能力が低下しており、水が一番必要となる田植え時期に末端地区まで水が行き届かなかったため、夜間調整など水不足の対応をするうちに、水系を覚えて行ったそうです。

総務課に勤務されまだ2年目ですが、管理の仕事がハード面だとしたら、現在の仕事は土地改良区の内部を知るソフト面の仕事だと感じているそうです。

具体的には、各種イベント・広報などの企画や賦課金徴収等を担当されており、賦課金徴収の際、組合員の方から北山ダムや川上頭首工の状況を聞かれたりすることもあるそうで、先の現場での勤務経験があるから、効率的に業務を進められてよかったですと思っているそうです。

また、企画の方では21世紀土地改良区創造運動による「水と歴史の探検隊」を担当されており、佐賀土地改良区管内の子ども達に、土地改良区の役割や水の流れと水の大切さを学んでもらい、子ども達が大人になる10年、20年先に繋がればと思い取り組まれています。



北山ダム監査廊探検隊

3. 苦労話し

現在の業務で一番苦労していることと言えば、賦課金の徴収だそうです。いろいろな組合員さんから賦課金を頂いおり、経済的理由や耕作をされていない所有者等から、なかなか理解が得られないため、その方々から徴収するのに大変苦労しているそうです。さらに、これまで先輩方がほぼ100%近い徴収を行っていたため、自分が担当者になって徴収率を落とせないというプレッシャーが大きかったそうですが、

昨年度は無事徴収することができたそうです。

また、今までに苦労したなどと思えることは、東京にダム管理主任技術者の資格を取得しに行ったことだと大坪さんは話してくれました。「取得には学科で1週間、実技で3日間、最終日に試験を受けなければならない、その間は寮生活で人生の中で一番勉強したと思います。手応えは感じていましたが、試験結果の通知が半年後にきて、開封するときはかなり緊張しました。というのも、今まで受けた先輩達が誰一人落ちていなかったのがかなりのプレッシャーだった。」と当時の思いを振り返ってくれました。無事合格されたそうです。

4. 家族とともに

「現場での管理には当直があるので、その時はいったん家に帰り、また職場に戻ります。その時間にあわせてご飯とお風呂を用意してもらっているのでとても助かります。また、子どもから笑顔で『がんばってね。』と言われると癒やされ、いくら辛くても頑張ろうと思えます。そんな生活を文句一つ言わず支えてくれている家族にはとても感謝しています。」と家族への思いを話してくれました。

5. 仕事への思い・心がけていること

「土地改良区に限らず部署により仕事は違いますが、私たちは天気に大きく左右されることが多いと思います。そのため、特にダム貯水池の水位管理や頭首工での分水調整には気をつけるよう心がけています。また、ある上司から言われたことで記憶に残っていることがあります



川上頭首工操作室

す。それは『常に気を張って仕事をするんじゃなくて、強弱をつけ、ここは踏ん張り所と言うときに必死にやる。』と言うことです。その言葉を聞いてとても気持ちが楽になりました。なので、たまには職場の仲間達とお酒を飲んでリフレッシュし、また明日からも頑張ろうと思うときが私の一番楽しいときです。また、農家の人からのお礼の言葉はあまりありませんが、渇水の時に苦労して流した水で田植えが出来、収穫まで無事に出来たのを見たときは、よかったと感動し、安心しました。このときの気持ちを忘れず今後も頑張りたいと思います。」と仕事に対する考えを話し

てくれました。

6. 終わりに



左から永田課長と大坪さん

上司である永田総務課長に、大坪さんについて伺ったところ「大坪君は、好奇心旺盛で、どんなことでもチャレンジ精神で体当たりで頑張ってくれています。わからないことに対しても自分が納得するまで諦めないで、とことん頑張ります。職員の中でも一番の元気者です。施設の管理から、今では賦課金の賦課・徴収まで安心して任せられる存在になってきました。いやな仕事でも自分から進んで行い、後輩の面倒見もよく、仕事に取り組む姿勢には目を見張るものがあります。」と語って頂き、「はじめて聞きました。」と大坪さんは驚いていました。

今後も土地改良区の職員として活躍されることをご祈念致します。

【九州農政局農村振興部設計課】